

海外生活 エッセー

ソウル事務所

アジアを代表するハブ空港への飛躍 ～仁川国際空港第2ターミナル～

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 前田 厚 (鳥取県派遣)

韓国最大の空港である仁川国際空港（仁川空港）は、2018年1月、平昌オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え第2旅客ターミナル（2タミ）を開業しました。2タミを中核とした工事の総工費は約5兆ウォンを要しました。年間1,800万人の処理能力を誇るこの2タミの開業により、仁川空港は、第1旅客ターミナル（1タミ）と合わせて7,200万人の処理能力を有する巨大空港となりました（成田空港全体の計画旅客数は4,950万人）。現在は、韓国のフラッグ・キャリアである大韓航空を含め、11社が乗り入れています。

今回は、開業から2年を経過したこの仁川空港の2タミを紹介します。



1タミより4メートル高い天井が解放感を演出

→ 自動化の徹底

2タミでは、チェックインから出国審査まであらゆる手続きが自動化されており、旅行者の待ち時間の短縮が徹底的に図られています。チェックイン・カウンターでは、セルフ・チェックインはもちろん、荷物の預け入れも自動化されているため、並んでいる旅行者はほとんど見られません。出国審査では、観光客のような短期で来韓する外国人であっても自動化ゲートが利用可能であり、こちらもほとんど並ぶことなく通過できます。このような随所の自動化により、旅行者がストレスを感じることなく空路を利用できる設計となっています。

→ 充実したサービス

レストラン、フードコートなどの食事ができる場所も充実しており、空路の利用の前後に韓国料理をはじめと

したおいしい食事を楽しむことができます。特に地下1階のフードコート「韓食美談道」には、韓国内のさまざまな地方の有名店が出店しています。ソウル市内にも出店していないお店も多く、空港での待ち時間で韓国内の旅行気分を味わえます。このフードコートは制限区域の外にあるので、空路を利用しない人でも食事だけ楽しむことができます。こちらも会計から振動ベルの受け渡しまで自動化されています。

また、多くの空港では航空会社のラウンジに併設されているようなシャワーや仮眠室といった設備も、2タミでは旅行者であれば誰でも無料で利用できます。

ハブ空港である仁川空港では、乗り継ぎの際長時間空港で待つこともあります。そのような旅行者のために、無料のトランジット・ツアーも用意されています。コースは空港周辺の1時間のものから、ソウル市内の観光地を巡る5時間のものまでさまざま用意されており、乗り継ぎ時間に合わせて選択可能です。このような旅行者への配慮も仁川空港では重視されています。このツアーは1タミの利用者も参加できます。



模型と3Dマッピングを利用した映像による空港の説明

→ おわりに

2タミは現在さらなる拡張工事を進めており、2023年の完工後は、処理能力が空港全体で1億人に達する見込みです。仁川空港は、チャンギ（シンガポール）、北京と並ぶアジアを代表するハブ空港を目指しており、その争いはますます激化するものと予想されます。この競争が、私たち利用者の利便性の向上につながることを期待します。